



須賀 康 (Yasushi Suga)
順天堂大学浦安病院皮膚科教授

【抄録】

炭酸ガスレーザー（波長10,600nm）は、水分への高い吸収特性を活かし、蒸散・切開・凝固によって皮膚良性腫瘍を効果的に除去する美容皮膚科治療として広く用いられている。母斑細胞母斑、表皮母斑、脂漏性角化症などの良性小腫瘍に対し、本レーザーは止血効果とともに、従来の外科的切除に比べて瘢痕形成や術後疼痛、出血が少ないといった整容的利点を有する。特に顔面や体幹部において良好な治療成績が報告されている。一方で、紅斑、びらん、浮腫、疼痛、二次感染などの急性期の副作用に加え、炎症後色素沈着、色素脱失、瘢痕形成（肥厚性瘢痕・ケロイド）、上皮化遅延などの中長期的合併症も認められている。また、過剰あるいは不十分な照射深度による腫瘍の残存・再発、悪性腫瘍の鑑別不備による診断の遅れも課題である。美容医療診療指針（改訂版）では、本レーザーの高い有効性を評価しつつも、リスク回避のためには適切な照射設定と術後管理が不可欠であると強調している。さらに、治療前にダーモスコピーを併用することは診断精度を向上させ、悪性腫瘍の見逃しを防止する手段として有用である。

【略歴】

1987年 順天堂大学医学部卒業
1992年 順天堂大学医学部大学院卒業
1995~1998年 米国テキサス州ベ일러医科大学に留学 帰国後は順天堂大学皮膚科の講師、助教授を経て
2007年 順天堂大学浦安病院皮膚科学教授
2009年 順天堂大学医療看護学部教授(兼任)

【所属学会・所属団体】

日本皮膚科学会(専門医、美容皮膚・レーザー指導専門医、指導医、代議員)、日本研究皮膚科学会(評議員)、日本美容皮膚科学会(理事長)、日本香粧品学会(理事)、角化症研究会(事務局長)、浦安皮膚臨床懇話会(事務局長)、日本小児皮膚科学会(運営委員)、日本レーザー医学会(副理事長、専門医、指導医)、日本レーザー治療学会(理事、専門医、指導医)、日本医真菌学会(代議員、専門医)、日本乾癬学会(評議員)、日本皮膚悪性腫瘍学会(評議員)

